

## 学長のコラム

### くまもと県北病院竣工式に出席して

2月14日(日)に開催された「くまもと県北病院」の竣工式に出席したので、このコラムを利用して同病院の概要をご紹介します。式典は新型コロナウイルスの感染防止のため規模を縮小しての開催だったが、山下康行理事長の主催者挨拶に続いて、蒲島郁夫県知事や野田毅代議士、設立母体である玉名市長、玉東町長、玉名郡市医師会長の来賓挨拶があり、熊本大学の富澤一仁医学部長、馬場秀夫副病院長(次期病院長)からも祝辞が述べられた。この病院は、公立玉名中央病院と玉名郡市医師会立玉名地域保健医療センターの合併によって設立された病院で、新幹線の新玉名駅に隣接する402床を擁する地域の中核病院である。熊大関係者の出席が多いのは、合併母体の1つである公立玉名中央病院が熊本大学の地域医療教育の拠点となっているからで、同病院には熊大病院の地域医療・総合診療実践学寄附講座の学外分室が設置されている。新病院になってからも、この連携は引き継がれるとのことである。この様な連携関係から、主要な診療科の教授や准教授の出席もみられた。開院は3月1日であるが、私自身は5年前の2017年から「くまもと県北病院機構評価委員会」の委員長を務めている関係から、本竣工式に招待された。先に述べた様に、本病院は自治体病院と医師会病院の合併であり、全国でも初めてのケースということで多くの解決すべき課題があったが、紆余曲折を経ながらも新病院の開院に至ったことに感無量の思いであり、病院関係者のご尽力に敬意を表したい。竣工式後に院内を案内してもらったが、広々とした受付エリアと外来スペースが整備され、最新設備を備えた7つの手術室が用意されている。救急病棟やICUにも十分なスペースが割り当てられ、新型コロナ対応のベッドも用意されている。透析室や人間ドックのための健診フロアも整備されており、地域の拠点病院としての機能が備わっている。母体となる2病院での診療科に加え、腫瘍内科、呼吸器外科、眼科、耳鼻咽喉科、歯科口腔外科が新設され、計30診療科での開院となるという。本学の卒業生も数名の就職が内定しており、今後、本学にとっても重要な位置を占める病院であり、今後の発展を期待したい。



[左]病院全景。6階建ての免震構造で、屋上にはヘリポートを設置 [中]広々とした受付エリア [右]最新の心血管造影装置

### 2月・3月の主な行事予定

2/26(金)	看護学科臨地実習合同会議
2/27(土)	大学院入試(社会人選抜Ⅱ期)
3/5(金)	学部入試(共通テスト利用選抜【後期】)
3/12(金)	卒業式・修了式
3/17(水)	銀杏学園理事会・評議員会
3/27(土)	キャンパス見学会
3/31(水)	辞令交付式

※この記事は公開していません。

### 学内発表会 in English

サイエンスカフェ・国際シンポジウム準備委員会共催「英語力UP勉強会 NOW OR NEVER!」では、この度、保健科学国際シンポジウム(2月19日大邱保健大学オンライン開催)で発表される5名の先生方を迎え、1月26日から3週にわたり学内発表会を開催しました。発表はすべて英語で行われ、発音やイントネーションなど、本学非常勤講師(Now or Never講師)のArmstrong先生から具体的なアドバイスをいただきました。また、多くの皆様が聴講され、延べ75名の参加となりました。本番さながらの英語での発表や質疑応答、またパソコン操作など、たくさんの学びがありました。10月に本学で開催予定の保健科学国際シンポジウムに向け、本学教職員のさらなる英語力UPが期待されます。(文責：共通教育センター 森友子)

### 国家試験受験のお見送り写真を掲載します。

理学・作業療法士国家試験(2/21)をもって本学学生による今年度の国家試験受験が終わりました。受験された学生の皆さん、お疲れ様でした。3月末の合格の報告を心待ちにしています。(文責・掲載：企画・人事課)



2/16(火) 医学検査学科



2/19(金) 言語聴覚学専攻



2/20(土) 理学療法学専攻

## コロナ禍における学生の学び支援 ちいき楽暮活動紹介 (2)

ちいき楽暮の活動紹介の第2回は「コロナ禍における学生の学び支援」への協力です。コロナ禍にあつて様々な授業に影響が出る中、看護学科保健師選抜制の保健所実習が中止となり、学内での代替実習の中で障害のある当事者の方等をお繋ぎし、ご自宅から講演をいただく「リモート家庭訪問」への協力をさせていただきました。

またボランティアサークル **Lovers** が例年行っている患者会を対象としたクリスマスのハンドベル演奏も、対面で行うことが困難となり相談を受けたため、オンライン演奏会に切り替え、SNSを通じた配信協力を行いました。結果的には全国にお住まいの方に聞いていただくことができ、重症児を育てる四国にお住まいの方から「自宅で息子と素敵な音色を楽しませていただきました」というメッセージの書き込みもいただく等大変好評で、学生達自身も大いに喜んでいました。

コロナで不便なことも多くありましたが、オンラインを活用することにより、新たな方法で学生の学びの場を広げることにも貢献できた一年でもありました。

(文責：ちいき楽暮)



## 令和2年度 第2回 ピア・サポーター& プチ・サポーター養成講座

令和2年度 第2回 プチ・サポーター&ピア・サポーター養成講座は、「多様な学生を理解しよう」をテーマに、Zoomでの開催となりました。講座では講義のほか、聴覚障害を克服して臨床検査技師免許を取得した卒業生の語りや、心のバリアフリー、発達障害者に関する動画等を視聴しながら、障がいや多様性という概念について学びを深めました。受講したサポーターの感想を一部ご紹介します。

- ・熊本保健科学大学が、障がいを有する学生に対しての配慮を丁寧に行っていることを知り、本学に在籍して学ぶことが出来ていることを誇りに思いました。(中略) 私たちは将来、ただ病気や怪我の治療を支援するだけでなく、心のサポートも忘れてはなりません。細かな気遣いが出来るよう、ピア・サポート活動を通して学んで行きたいと思えます。
- ・卒業生の動画を視聴して、「その人が持っている“能力”の可能性に目を向けてください」と、という言葉がとても印象に残りました。私たちが将来目指す医療従事者としてだけでなく、一人の人間としてこの考え方はとても重要であり、障がいについての認識や考え方について改めて考える時間となりました。

サポーターたちの感想からは、サポートに対する意識の高さを感じ取ることができました。今後の活動に期待しています。(文責：学生相談・修学サポートセンター)

## アカデミックスキル支援センター (2)

アカデミックスキル支援センター(ASC)紹介の第2回は「アカデミックスキルⅠ・Ⅱ・Ⅲ」との連携、についてである。

ラボ/ASCの特徴の一つとして全学必修科目群「アカデミックスキルⅠ・Ⅱ・Ⅲ」との密接な連携がある。Ⅰ・Ⅱ・Ⅲではリーダー学生がファシリテーターとなって自ら学びながら他の学生を支援する。このリーダー学生の研修を担当するのがラボ/ASCである。このほか、授業で使う映像コンテンツの作成、成果物に対するコメントには教員だけでなくラボ/ASC指導員が大きな役割を果たしている。Ⅰ・Ⅱ・Ⅲは対話型授業を行っており、これも大きな特徴である。ともに同じ文献を読み、ファシリテーターの助けを得ながら対話を重ねることにより論理的に考え、相手にわかりやすく、説得力を持って伝えることができるようになる。(文責：アカデミックスキルラボ長 渡辺雄一)

## 寄稿文「難聴を乗り越えて」のご案内

臨床検査の総合学術情報誌である **Medical Technology** (医歯薬出版株式会社) 48巻12号(2020年12月号)中のコラム“LABO LIFE—私の仕事・私の明日”に、本学卒業生の原口彩央里さんが「難聴を乗り越えて」と題して寄稿しています。聴覚障害を有しながら医学検査学科で学び、地元検査センターでの業務に『臨床検査の醍醐味を感じる瞬間』があると語っています。さらに、読者の皆さまへ『障がい者が有する障がいによって、「これが出来ないから…」、「あれができないから…」という、先回りしてその人の「伸びしろ」をなくしてしまわないでください。』とメッセージを綴っています。

本誌は、本学図書館にも配架されています。

(文責：学生相談・修学サポートセンター)



## 看護学科キャリア教育セミナー

看護学科2・3年生を対象にキャリア教育セミナーを開催いたしました。本セミナーはキャリア教育の一環として、各施設の情報収集を行い、職業観を再確認して、将来の自分を具体的にイメージすることが主な理由です。例年は各施設による対面形式で実施しておりましたが、今回は新型コロナウイルス感染拡大防止のためWeb形式に変更いたしました。具体的には2月8日から26日までの間、学生専用の特別サイトを用意し、その中に参加施設のページを設けております。ページ内には各施設の仕事内容や教育体制などが掲載され、自由に閲覧できる仕組みとなっています。配信日には学生たちが一致団結できるよう時間と場所を限定して、学内に集って情報収集を行いました。3年生は就職の準備講座である就勝ガイダンスと合わせて実施したことで、より就職への意識が高まったようです。

ぜひ自分たちの納得のいく就職活動ができることを期待しています。

(文責：就職・実習支援課)



## 私の秘話ヒストリー

今回は教学支援課の西山 佳那さんに投稿していただきました。

最近、絵本を読む機会が増えました。もうすぐ3歳になる姪の遊び相手になっているからです。とはいっても遠方に住んでおり、このご時世で会うことも出来ませんので、ビデオ通話でお喋りをしたり絵本を一緒に見たりして遊んでいます。リモート子守りです。姪っ子は器用に見せたいものを画面に映して遊んでくれていて、私の癒しの時間になっています。

その中で自分が幼い頃に好きだった絵本を久しぶりに読みました。関西弁のカバ君が色々な仕事に挑戦をするも失敗ばかりというお話です。そんなカバ君は最後に一言…。「ま、ぼちぼちいこか。」カバ君のゆる～い口調と雰囲気相まって、ほっと力が抜け、また癒されたひと時でした。

様々なことが思い通りに行かないこのご時世ですが、一息つきながら少しずつ進んでいければと思います。姪っ子はというと、その後しばらく「ぼちぼち、ぼちぼち…」と呟いていたようです。